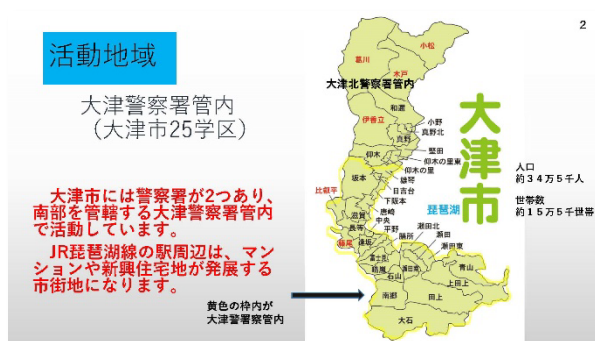


# 大津警察署子ども安全リーダー連絡協議会（滋賀県）

皆さん、こんにちは。ここ滋賀県の大津市で活動しています大津警察署子ども安全リーダー連絡協議会会長の松田でございます。どうぞよろしくお願い致します。本日このような機会をいただき本当にありがとうございます。これから私たちの活動を紹介したいと思います。



この写真は、また後で説明しますが、防犯教室の人形劇の1場面です。大津市には警察署が2つあります。私たちの活動地域である南部は大津警察署の管轄となります。管内には25の区画があります。

## 団体の概要

平成9年に神戸市須磨区で発生した児童連続殺傷事件を機に、翌年の平成10年、滋賀県警が各警察署の各学区に5名程度の子ども安全リーダーを選任し、「子どもの安全確保を推進する」という目的でスタートしました。

- 平成12年10月 滋賀県子ども安全リーダー連絡協議会設立
- 平成13年7月 大津警察署子ども安全リーダー連絡協議会設立（防犯教室を活動事業。子ども110ばんのおうちの整備管理）
- 平成17年4月 大津市と大津警察署子ども安全リーダー連絡協議会「協議書」の締結。（活動補助金20万円の交付）
- 平成18年 大津警察署安全安心メールの配信開始
- 平成18年4月 子ども安全リーダーによる「青バト」活動開始

## 構成員（25学区）

総数182名

会長1名 副会長4名 事務局長1名 監事2名  
各学区に幹事、副幹事を配置

- |            |          |           |
|------------|----------|-----------|
| ・逢坂（7名）    | ・日吉台（8名） | ・南郷（8名）   |
| ・中央（4名）    | ・坂本（6名）  | ・大石（9名）   |
| ・平野（6名）    | ・下阪木（7名） | ・田上（8名）   |
| ・膳所（6名）    | ・唐崎（4名）  | ・上田上（6名）  |
| ・山中比叡平（9名） | ・滋賀（6名）  | ・瀬田北（10名） |
| ・藤尾（7名）    | ・富士見（6名） | ・瀬田南（10名） |
| ・長等（5名）    | ・晴嵐（7名）  | ・青山（14名）  |
| ・巖琴（5名）    | ・石山（5名）  | ・瀬田（7名）   |
|            |          | ・瀬田東（12名） |

平成9年、神戸市須磨区で発生した児童連続殺傷事件を記憶しておられる方も多いと思いますが、この翌年、滋賀県警が各警察署管内の学区に5名程度の子どもの安全リーダーを選任し、子供の安全確保を推進するというを目的でスタートしております。その後、私たちの大津では継続的な防犯活動の強化を図るため、平成13年に大津警察署子ども安全リーダー連絡協議会を設立し、防犯教室や子ども110番コーンのおうちの整備管理を始めました。

構成員につきましては、管内25の学区から現在182名の子ども安全リーダーが大津警察署長の委嘱を受け活動しています。

## 主な活動内容

- ① 子どもの登下校を見守る立番や青パトでのパトロール
- ② 防犯教室の実施
- ③ 子ども110番のおうちの設置・管理
- ④ 地域安全マップの作成と配布



主な活動は大きく分けて、この①から④の4項目となります。

まず1つ目は、子供の登下校を見守る立ち番、青パトでのパトロール活動です。青パト19台の活動や自転車や徒歩での見守り、登下校の付き添い、立ち番といった見守り活動を25の学区が各学区の実情に合わせて、各メンバーが無理なく継続して実施しております。例えば、この青パトでは拡声器を付けて、『犬のおまわりさん』の音楽を鳴らし、誘拐に遭わないための5つの約束を連呼しながら活動しています。子供たちに車内から声掛け、挨拶などをしながら走っています。

## ② 防犯教室の実施（主に小学校・幼稚園・保育園）

☆令和3年度は、48回実施しています。  
 （コロナ禍の自粛により減少しましたが、例年は約65回実施）

- ・防犯教室は、各学校から警察署に届いた依頼書を元に、事務局が日程調整をします。
- ・小学校では寸劇、幼稚園や保育園では人形劇を実施しており、誘拐防止のための対処方法を指導します。
- ・シナリオは、子ども達が興味を持つように、その時の流行のアニメ等を取り入れて工夫を凝らしています。
- ・防犯教室はリーダーの他、**交番の警察官**、**生活安全課の警察官**の合同で実施しており、寸劇では**先生**も登場します。

## ①子どもの登下校を見守る立番や青パトでのパトロール



・原則毎月20日「地域安全の日」にパトロールを実施します。

## 防犯教室の準備



R3.5 防犯教室を実施する前は、体調管理の再徹底をしています。

## (R3.5.13 市内小学校)



R3.5 防犯教室前に交番の警察官と舞台裏で台本の打ち合わせをします。

次は、私たちの活動で特に重点を置いているのが防犯教室です。去年はコロナ禍で自粛して48回の実施でしたが、例年65回程度、実施いたしております。ちなみに今年度は64の校園から依頼を受けております。防犯教室の実施につきましては、年度始めに各小学校や幼稚園などからの依頼書を大津警察署に提出していただいて、それに基づいて事務局が1年間の日程調整を行って、年間の実施計画表を作成しています。これが事務局におきましてはなかなか大変な作業となっております。小学校では寸劇、幼稚園や保育園では人形劇で誘拐防止の教育指導を行っております。

次は、防犯教室の準備の様子ですが、左の写真におきましては、検温、そして消毒、体調記録表を記入するところでありまして、右につきましては、児童役が交番の警察官と台本の打ち合わせをしているところです。

## 防犯教室の様子（寸劇）



児童に声をかける不審者役（生活安全課警察官）

## 謎の配役は！！

児童役（学校の先生とリーダー）



児童が助けを求めた大人役に校長先生も登場！

子ども安全リーダー事務局担当

## コロナ禍で児童と距離を保ち防犯教室を実施



（寸劇）犯人を追いかける警察官の状況。後方に児童がいます。



寸劇終了後、交番警察官が児童に指導を再徹底します。

小学校での寸劇の様子ですが、左のほうは下校中の児童が不審者に声を掛けられ、連れて行かれそうになっているストーリーです。ちなみに不審者役は、大津警察署の生活安全課の警察官が演じています。

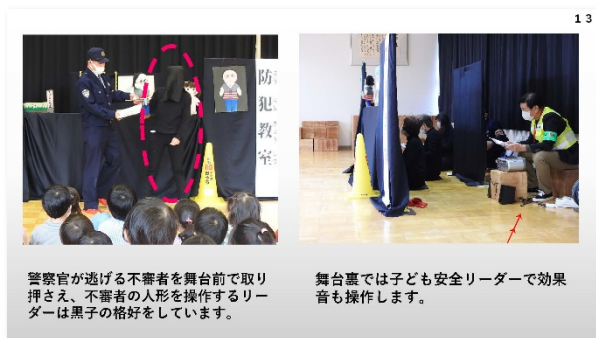
右はお巡りさん役の警察官と男子児童を演じている担任の先生、そして今日もここに来てくれているんですが、女子児童役の子ども安全リーダーです。ところで右側に謎の配役が写っております。これは、児童2人が助けを求める大人役です。近くにおられた校長先生に児童2人が助けを求めました。ちなみに児童が助けを求める大人役の先生におきましては、サプライズで登場してもらって、アドリブで対応をいただいています。

次は、子ども安全リーダーだけでなく、大津警察署の警察官、交番の警察官、そして先生と一緒にあって連携し、子供たちのために防犯教室がより児童の心に深く残るような演出をしています。これはコロナで児童と距離を保ちながら、教室を実施した様子ですが、左側は警察官が不審者を追いかけているところです。右側につきましては交番の警察官が防犯の教育を指導しているところです。



次に、この写真は、人形劇の舞台を組み立てているところです。パイプで組み立てる舞台も材料は全てホームセンターで購入して、人形の本体以外はほとんど私たちの手作りです。この日、大学生ボランティア2人が見学に来てくれて、準備の手伝いもしてくれている様子が写っています。このように若い方が関心を持って携わってくれることについては、本当にうれしく思っております。

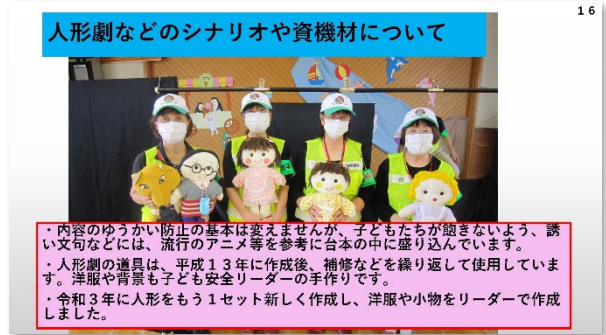
次は、この写真は、皆さんに本当は声も聞いていただけたら本当に良かったのですが。写真で非常に残念なんです、人形の操作をしながらセリフも生声で、子ども安全リーダーが演じています。ストーリーは不審者が言葉巧みに近づいて、スマホで容姿撮影したり、園児が好きそうなアニメのカードをあげるなど言って、園児を連れ去る内容です。劇では本物の警察官が登場し、警察官が園児役の人間に対して、逃走した不審者の服装などを聞きとっている場面がありますが、ここでは見ている子供たちにも不審者の特徴、服装などを思い出してもらうようにしむける演出もしております。



次は、左は逃げる不審者を、舞台前で警察官が取り押さえているところですが、人形を操作する子ども安全リーダーは、黒子の格好をして顔を見せないように舞台の前で演じております。右が舞台裏ですが、場面にふさわしい効果音響を、台本を見ながら流しているところです。

次は、人形劇の後は子ども安全リーダーが誘拐に遭わないための5つの約束、例えば1人では遊ばせんなどを読み上げて、5つの約束を守るように教育指導をしています。ちなみに小学校でも同じことをやっております。なお、子供たちに誘拐に遭わないための5つの約束、裏には保護者向けの内容が書

いてるんですが、これをプレゼントしまして、園児がそれを持ち帰って、その日に家族と一緒に人形劇などの話をしてもらおうようにしております。それと、小学校においては、この誘拐に遭わないための5つの約束のファイル、これをプレゼントしまして、同じく学校で習ったことを家族にも話してもらって、この誘拐に遭わないための5つの約束をしっかりと守って生活するように、そういうことを指導しております。右側の写真ですが、警察官がそれぞれ防犯に対する教育指導のまとめをしているところです。そして、人形劇や寸劇の最後に園児や児童に、警察官および、子ども安全リーダーの顔や名前を、子供たちに覚えてもらって、親しみを持っていただけるような自己紹介の時間も設けております。余談ですが、このときに園児から、また児童から私も警察官になりたいというような声も上がっているときがございます。



次は、これは、コロナ前の防犯教室の様子です。かなり密で本当に子供たちと一緒に演じているような状況の中にあります。

次は、人形劇のシナリオや道具についてですが、シナリオは子供たちが飽きないよう誘い文句は、はやりのアニメのキャラクターを使ったり、毎年、少しずつ手直しして行っております。人形劇の道具につきましては、ほとんどが子ども安全リーダーの手作りで、人形の洋服なども手作りをして毎年、補修をしながら使用をしています。ちなみに昨年、道具をもう1セット新しく作りました。



次は、主な活動、3つ目は、子ども110番のうちコーンの設置管理です。万が一、子供が不審者に遭遇した際に、子ども110番のうちコーンを目印にして、助けを求めて駆け込める避難所を一般家庭や商店、事業所に設置していただいております。3月末現在の設置数は、ちなみに2222カ所となっております。毎年、定期的に点検、管理もしております。このコーンがあることによって子供たちの安心につながってほしいと思っております。

次は、これは、夜間になれば自動的に光るコーンなんですけど、2222カ所のうちの785カ所で設置していただいております。昨年からはエコを目的としたソーラー電池、これを使用したコーンの設置も始めています。皆さん、ちょっと気になっておられたと思うんですが、ここに置いているコーンが実は、こういうふうに暗くなれば光るようになっております。

#### ④ 地域安全マップの作成と配布

19



子どもが万が一、不審者に遭遇した際、助けを求めて駆け込める避難所を一般家庭や商店、事業所に設置してもらっています。

次は、地域安全マップの作成と配布ですが、このような110番コーンの設置箇所のマップを毎年、更新しまして、小学校や交番、支所などに配布しております。これがマップなんです。25学区、全て網羅した地図を毎年、作成しています。

#### 活動の成果

20

平成12年から活動を始め、これまで登下校時の大きな子どもの事件は発生していません。

発足後しばらくは、大津警察署子ども安全リーダー連絡協議会の認知度も低かったものの、地道な活動を続けることにより、地域の中核となる団体に現在は成長しています。

また、大津警察署から不審者情報が早期にメール配信され、情報共有しています。

警察・学校・地域住民・自治体・保護者と連携し、子どもの見守りを行うことができています。

#### 課題/課題の解決に向けた取り組み

21

##### ・高齢化に伴う後継者の確保

各学区の幹事が、活動を積極的にアピールして勧誘を行っていることから、現在、総員があまり減らず維持ができています。

しかし、後継者の保護者世代は仕事をしている方が多く、平日の防犯教室の日程調整が付きにくいのが現状です。

対策としては、防犯教室等は早めに調整して、活動しやすいよう計画しています。

また、各学区で役割や担当を決めており、多くの人員で回し、1人に負担がかからないよう心掛けています。

以上が私たちの主な活動ですが、活動としましては、子ども安全リーダーが設置された平成12年から今日まで、おかげさまで不審者による登下校の子供に対する大きな事件が発生していないことが、私たちの一番の成果だと思っています。また発足しばらくは、子ども安全リーダーの認知度も非常に低かったんですが、活動を続けていることで、現在は地域の中核となる団体に成長してきていると思っております。そして私たちの活動が警察、学校、地域住民、自治体、保護者などと連携しながら、子供の見守りや、子供たちの防犯に対する意識の向上などにつながっていると思っております。

次は、私たちの課題につきましては、高齢化に伴う後継者の確保になります。活動するには人数確保が必要になりますし、これが一番の課題になると思っています。現在は、25学区の幹事が活動内容を積極的にアピールして、各自治会の連合会長と連携しながら勧誘を行っています。現在のところは構成員の人数は、皆さまのおかげで維持されているような状況にあります。しかし、後継者になっていただきたい保護者世代や、メンバーの中にも仕事をしておられる方も多く、平日の活動となる防犯教室や、登下校の見回り活動などは参加が難しいという現状もあります。その対策としまして仕事のシフトをしていただいたり、休暇を上手に活用していただくために、防犯教室につきましては、年度始めに日程計画表を作成して、併せて役割分担表を作って、ボランティア活動に参加しやすくなるように努めています。

#### まとめ

22

・子ども安全リーダーが発足当初は、見守り活動を目的としていましたが、現在は、子ども達が自立し、「自分の命は自分で守る」という、自分で考える力を身につけてもらいたいと指導しています。

・防犯教室を通じ、子ども達の安全を見守り「子ども110番のおうち」のように地域で協力し、安全・安心な街づくりを目指したいと思っています。

・子ども安全リーダー自身も、大津警察署長の委嘱を受けることで、責任感を持ち、やりがいを感じて活動しています。

警察・学校・自治体・地域住民・保護者が協力しながら、今後も積極的な活動を続けます！

ご静聴ありがとうございました。<sup>23</sup>



次は、最後まとめになりますけども、子ども安全リーダー発足当初は見守り活動を目的としていましたが、現在は子供たちが自立し、自分の命は自分で守るということ。すなわち、もしものときにどのようにしたら、自分やみんなを守ることができるか、自分で考える力を身につけてもらうように教育、指

導するように努めています。地域で協力して、子供たちの安全を見守る子ども 110 番のうちの広がり、より安全安心な街づくりができるように努めていきたいとも思っております。私たち子ども安全リーダーは、大津警察署署長の委嘱を受けていることで誇りを持って、責任感とやりがいを感じながら日々、活動しております。これからも一人一人が無理なく活動できるように、子供たちが安全に安心して生活できるまちづくりを、警察、学校、自治体、地域住民、保護者が協力し合いながら積極的なボランティア活動を続けていきたいと思っております。

以上、私たちの活動内容について紹介させていただきました。本日はご清聴ありがとうございました。

## 綾部セーフティパトロール隊（京都府）

皆さん、こんにちは。私は京都府綾部市からまいりました。綾部セーフティパトロール隊をしております事務局の爲廣と申します。よろしくお願いをいたします。まさかこういう形で、この場所に私も立たせていただくということは夢にも思っておりませんで、いささか緊張をしておりますが、どうかよろしくお願いをいたします。私の本業は僧侶です。寺院の副住職です。丹波のカラス寺といいまして、ネットで検索していただいたら出てくると思うんですけど。カラス寺っていうと寺が黒いかなとか、住職が腹黒いのかなと、そんなふうに使われるかもしれませんが、またその辺の話になりますと本来の話からずれてしまいますので、防犯の団体の話をさせていただきたいというふうに思います。



【京都府】

### 綾部セーフティパトロール隊



### ～綾部市のご紹介～



まず綾部市って聞かれて、京都府の綾部市、さあ、それはどこだろうというふうに使われるかもしれませんが、ちょっと市の紹介をさせていただきたいなというふうに思います。ここですね、京都府がありますと、ここ、綾部市。大体、中心からちょっと北のほうです。よく私たちが綾部市というと、どこですかって聞かれるんで、福知山の隣で舞鶴の下のほうでって言うと、「ああー」って言われるんですけど。あまりイメージがない町かもしれません。ここに書いてございますように、人口は約3万2000人、非常に小さな町でございます。そんなところからやってまいりました。市内中心には由良川っていう川がずーっと流れておりまして、福知山を通過して舞鶴のほうへ抜けると。この川も近年、ちょっと水かさが増して水害が起こったりというような川でございます。また JR のほうは山陰の本線、そして舞鶴線の分かれるところにもなっております。交通のほうは近年かなり良くなりまして。高速道路は舞鶴若狭道が通っておりますし、京都縦貫道もちょうど綾部市を通過しております。交通の要所というような形になっておりまして、私たち市民にとっては、京都市内とか京阪神に行くには便利になったなというふうに思っているんですけども。京阪神のほうから来られたら、田舎で大変ですやろなあというようなことをよく言われます。そんなところで私たち防犯活動をしております。

## ～綾部市ってどんな街～その1

- ▶ 位 置：京都府の中央北寄りに位置する田園都市
- ▶ 市制施行：昭和25年8月1日
- ▶ 市の花：うめ
- ▶ 市の鳥：いかる
- ▶ マスコットキャラクター まゆピー
- ▶ 産業：養蚕・・・グンゼ（株）発祥の地（1896創業）



まゆピー

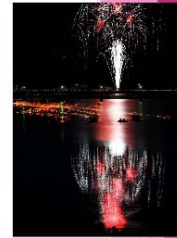


グンゼ創業者 波多野鶴吉（1858～1918）

## ～綾部市ってどんな街～その2



綾部市 さくらまつり 4月上旬



水無月まつり花火大会 7月

それでは次、綾部といいますと、グンゼ発祥の地ということで、皆さんよくご存じの肌着メーカーのグンゼですね。この発祥の地が綾部市なんです。ですので、綾部市のマスコットもまゆピーといいまして、まゆですね。そんなことで養蚕の盛んであったということで明治29年からグンゼのほうで創業しておるとい町でございます。このグンゼさんは非常にたくさんの土地を持っておられましたので、現在、市内の中心部にグンゼでさんの土地を利用したグンゼスクエア、いわゆる地域の特産品を販売したり、それから、市民の手づくりでバラ園ができております。そんなところでございます。それから綾部市はものづくりの町ということもいえるというふうに思いまして。現在は、市内に工業団地が企業誘致をしております、京都府と綾部市と合同で合同団地がございます。オムロンさんとか京セラさんとかありますし、カルビーさんもございまして、じゃがりこは綾部生まれでございます。そんなところでものづくりの町と。ものづくりは人づくりともいえますけれども、そんな町でございます。

市内でもいろいろと催し物がございまして。春は梅まつり、それからさくらまつり、それから、今年、約3年ぶりにコロナ禍ということもありましたけれども、水無月の花火大会を7月の23日土曜日に予定しております。これ、実施をするということで実行委員会のほうからも聞いております。オール綾部で市民、それから地域のみんを元気にしようというお祭りでございます。この祭りにも私たち、ちょっと関係をさせていただいております。当日の交通状況みたいなのをお伝えするちょっとそういうボランティアをしております。具体的にはまた後で触れたいというふうに思います。

## 綾部セーフティパトロール隊について～その1

- 成り立ち 趣味であるアマチュア無線の仲間と一緒に活動を開始  
メンバー  
コミュニティFM放送局「FMいかる」内のアマチュア無線クラブ有志
  - 活動をはじめた動機 無線を活用して地域貢献をしたい。
  - 活動のモットー 無理せず、長く続けていける活動を
- ・活動開始時期 平成22年3月～（当初現役世代 当時平均年齢55歳）  
・メンバー11人（現在の平均年齢62歳）  
・青バト台数10台（全車自家用車、うち6台にドライブレコーダー搭載）

それでは次、具体的にこの綾部セーフティパトロール隊についてということについてお話をさせていただきたいというふうに思います。私たちのこの団体は、地元コミュニティFMのFMいかる、通称名です。FMあやべといいますが、この局が平成10年に開局をいたしました。第三セクターの方式であったわけですが、いわゆる通常は市の広報、それから娯楽番組、それから市民パーソナリティによる番組と。そしてもう1つの主な役割では、自然災害のときの防災ラジオという役割があります。この防災ラジオに関連をしまして、開局後、

実はアマチュア無線ですね。これを非常通信のボランティアで募集をされました。そんな中で15名の者がアマチュア無線、普段、使っています。それをちょっとでもボランティアというのか、お手伝いできたなら協力しますよという形で、FMいかるのアマチュア無線クラブっていうのが誕生いたしました。私もそこに声を掛けていただきまして、参加をいたしました。そこで初めてメンバーの方とお会いする方、初めての方ばかりでございました。年齢も職業もさまざまでございます。全員、男性ではありまし




たけれどもばらばらで、そこで初めて出会ったと。ただ、目的はアマチュア無線、趣味でやっているの  
で。皆さんもアマチュア無線っていう無線、あまりご存じない方もいらっしゃるかもしれません。ここ  
につけておりますけれども、これはハンディー機といいまして、持ち運びができるタイプのものでござ  
いいますが。こういう無線は趣味のいわゆる遊びの無線なんですね。ですので、業務用には使えません。  
ただし近年は社会貢献ということで、総務省のほうが地域のボランティアだったり、祭りであったり、  
学校行事であったりで、このアマチュア無線は使ってもらってもいいですよという方向にはなっており  
ます。ただし、業務用で使うってことはNGという無線でございしますが、これを災害時の情報伝達。阪神  
淡路のときにも役に立ったという記憶がございしますが、アマチュア無線が通信が途絶えてしまって、携  
帯電話も何も通じないと。そういうときにアマチュア無線で人命救助、あるいはいろんな物資を、こん  
なんが不足しているとかいうことを、私とこではFMいかるの本社へ伝達をします。FMいかるにも24時  
間バッテリーが稼働しておりますので、もしも停電をしても電波を出せる。市内の皆さんには、身近な  
FMラジオで情報が聞けると。最近は緊急の放送が入るような自動的に入る防災ラジオも市のほうで用意  
をさせていただいておりますけれども。そんなところに私たちの活動が始まりました。防災っていうのか、  
非常時っていうのは、そんなんあったら困るわけですけども。それだけに集まっているんではもった  
いないなということでありまして。何か平時からできることはないやろうかという話になりました。実  
は私が提案をしたのが、防犯パトロールどうですかと15名に問い掛けをしますところ、11名がいいよ  
と、しようということでOKをもらいました。有志でやりました。もちろん反対をした者もおりますけ  
れども、有志という形でFMいかるのアマチュア無線のメンバーの中で構成をする防犯パトロール隊を  
結成をいたしました。勝手に結成をしたわけでありまして。どういう形で市民の皆さんに知ってもら  
うかっていうことも、まだそのときは決まっておらずで。そこで地元の綾部警察署のほうへ行きま  
した。こういう防犯活動をしたいんですけれども、どこの課が担当してもらえますかというところから  
始まりまして。当時、生活安全課のほうへ通されました。実は私たちこういうアマチュア無線を使っ  
ている団体なんですけれども。今回、防犯パトロールを始めたいと思うんですって言いました。担当の方  
も、「そうですか」と。「アマチュア無線、ちょっと興味あるんやけどな」と。ただ、すぐに始めてくだ  
さいとはちょっとなかなかねという感じでした。というのはどんなもんがやっているか、海のものとも  
山のものとも分からないようなものに、すぐにどうぞとは、担当の方もそりゃそうだと思います。何回  
か連絡をしながら、こういうようなこととていういろいろなことを聞きながら始めておりまして。その中  
で何回か相談に行ったときに、子ども110番の車っていうのがありますね。その子ども110番の車を、  
私たちもしますっていうことで、何台か警察のほうに自主的な届けを出しました。そしたら何回もお会  
いしている担当の係長さんが、「あんたら、本気やね」と。「あんたら、ほんまにやるんやね」と。「ほん  
なら、実は青色防犯パトロール隊っていう、青パトっていうのもあるんで、それ、申請しいひんか」と  
いうふうに言われました。私たちもそういう青パトがあるっていうことは知ってはあったんですけど  
も。最初からそれをするというよりは、徒歩で歩いて、メンバーでいわゆる無線機を使って、通信テス  
ト、通話テストとかね。どことどことはちゃんとつながるといようなことを、いわゆるメリット  
交換といいますけれども。そういうことをしながら歩いていく。その間にゴミが落ちていたりとか、ど  
っかちょっと不具合があったりとか、ここはちょっと危険かなというところのチェックしながら、  
歩きのパトロールを何回かやってはいました。ただ、本格的といいですか。雨が降ってもどんなときで  
も、できるということとはとなると、青色防犯パトロールですね。いわゆる青色回転灯をつけたパトロー  
ルも、これもいいんじゃないかなということで、じゃあ、始めますと言いましたところ、いろいろ装備  
ですね。そういうことも、このマグネットでパトロール中ということをしていないといけない。それから回

転灯ですね。これも用意しないとイケない。それからこういうパトロールベストとか、それなりの格好といますか、装備は必要でした。メンバーにそのことも伝えますと、なんとメンバーみんな、自費で負担するの OK やと。自分の車をパトロール車にして全然 OK やと。お金のことについては一切、何も言わずに、みんなでそろえるんやったらそろえるでと。ガソリン代とか、そういうの普段かかるお金も構わないと。それでもやるというふうに、最初 5 台、そういうメンバー 5 人が集まりまして。じゃあ、ということで警察のほうに再度、行きますと、最初からお世話になっておりました係長さんが、もう春の異動になるんだと、もう自分がおる間に早く申請してくれと、逆に急がれたんですけれども。そんな急に言われてもちょっとねということで、実際にはその係長さんが異動になった後に申請が通ったわけですけれども。そんな形で、自分たちからパトロールをやりますという形です。警察さんのほうもまずそういう事例がないんで、どうかなというふうな形は最初、思われたようでございます。そういうことで実際パトロールが始まるわけです。現在は、メンバー 11 名で 10 台のパトロール車で、そのうち 6 台がドライブレコーダーがついております。防犯カメラという形でもあろうかというふうに思います。そんな形で、われわれの団体はパトロールをスタートしたわけです。

### 綾部セーフティパトロール隊について～その 2

- 活動状況
  - ・青色防犯パトロール車の運用 (月平均 15 回)
  - ・交通安全・防犯広報啓発 (年間 15 回)
  - ・登下校時間に合わせた巡回パトロール (通学路、公園付近を中心に)
  - ・防犯メールの情報に基づく発生場所・時刻に合わせた巡回
  - ・夜間の住宅街警戒、コンビニ、駅周辺の巡回・駐留警戒
  - ・警察署との合同パトロール
  - ・市民駅伝、あやべ水無月まつり花火大会等の交通監視



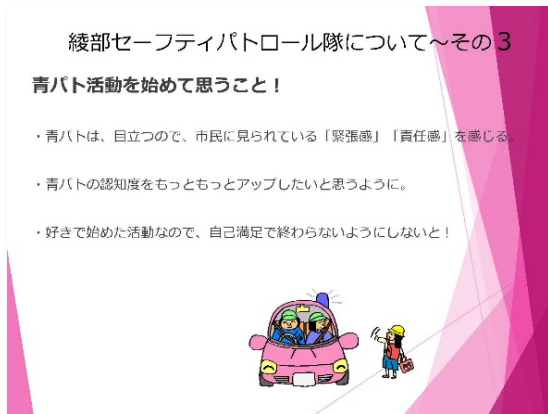
市内を歩いておると、ゴミがたくさんあったりと、それからタバコの投げ捨てであったりとか、あまりきれいではないところというのは、やっぱり乱雑になって、ちょっとあまりよろしくないなど。割れ窓の理論みたいなような形になってしまうのもいかなかなど。これはきれいにゴミ拾いもしながら、声掛けをしながらやっていこうかと。できる範囲のことをやろうというところから始めております。それから無線機を使っておりますので、交信ですね。この無線機も電化製品と一緒に、ずっと大事に置いておきますと使えなくなって、いざというときに

バッテリーが切れているとか、通信ができないとかいうことがあるので、大体、月に 1 回は、あるいは 10 日に 1 回ぐらいは電源を入れたりとか、交信をしたりとかいうことが必要になります。そういう面でもメンバーと普段から連絡ができる。LINE とか、いろいろそういう SNS とかいうようなツールもございすけれども、無線もできたら活用しよう。その方向でやっております。まずこの活動の内容について、もう少し詳しくお伝えをしたいなというふうに思います。まず、この青色防犯パトロール車の運用ということは、月平均 15 回。私の例でいきますと大体年間 1800 キロぐらい走っております。1 回に大体 10 キロから 20 キロとか、いろいろその日によっては違いますけれども、そんな形で大体、年間 1800 キロぐらい走っているのかなど。月にしてガソリン代は結構、私の車は燃費がいいみたいで、軽自動車ですけど、リッター 20 ちょっと出ますので、月にすると千円ぐらいかなと。でも、これ、他のメンバーも普通車とか、結構、排気量の大きな車とかもありますけれども、全部、自費で賄ってくれております。始めますと最初の頃、市内にも何台かの青パトはあったわけですけれども。なんだ、あの車はということで結構、後ろ側からあおられる、今で言うあおり運転ですね。そういうことはよく受けました。速く走れと。でも、法定速度で走っておって警察に文句言うやつは誰もいませんので、そういう話が後から聞いたということはなかったように記憶はしております。ただ、あまり交通の流れを妨げるというのはよくないので、ある程度するとちょっとこう出て、行ってもらおうという形のこと、パトロールを始めておりました。それから次に、交通安全とか防犯広報啓発。これ、年間 15 回というふうに書

いておりますけれども、安全・安心まちづくり推進協議会というのがございまして、そちらのほうに私も出向をしております。その関係で安全協会さんであったりとか、防犯協会さんであったりとか、警察さんであったりとかで、年に何回も啓発時期がございましてね。交通安全週間であったりとか、防犯の週間、そういうときの啓発活動に参加をさせていただいております。それから登下校時っていうことになっておりますけれども、これに合わせた巡回パトロール。実際、始めた頃は現役の世代ということでありまして、50代でした。ですので、朝の時間帯のパトロールというのはなかなか厳しい。帰りの時間もちょっと厳しいかなと。下校時間もちょっと厳しいかなと。私は比較的、自由な身でもありましたので、時間が取れるときには、下校時にパトロールをしたり、登下校のところで見守り活動をしていました。誰かが出れるときに、出れる者がやったらいいのではないかというスタンスが、私とこではとっております。ただ、だらだらと好き勝手に。これはなんか事故があったときにもいけませんし、大体のこういう形でパトロールをするんだというのは、会員同士なのか、隊員同士の連絡である程度、把握ができるような事前に、あるいは当日にSNSであったりで連絡するようにはしております。それが無い、あるいはLINEとか、そういうスマートフォン使っておられない隊員の方は、無線で連絡ができたらいかなんかということも進めていました。それから防犯メールですね。これに基づくパトロールと。私とこでは機動防犯と言っておりますけれども。防犯メールでこんなこと事案が発生しましたといったら、それに直ちに近いメンバー、あるいは出れるメンバーで、パトロールをしようということですが、このメールがちょっとタイムラグ、だいぶかましませんけども、あるんですね。3日後とか。今日はすぐではないんですね。ですので、ちょっとそこは問題かなというふうには思っておりますけれども。不安に思われることが、ちょっとでも青色回転灯の車が通ればいいのかないかなというぐらいで行っております。それから夜間の住宅街を警戒したりとか、コンビニエンスストアを点にしてつないだパトロールをしたりとか、駅周辺の巡回とかいうこともしております。私も1回ちょっと頑張っ、夜中にパトロールをしようかなと思って、時間があつたときに、今日は気合を入れてパトロールしよう。実際にそれ、何回かやったことがあるんです。たまたまといいますか、やはり夜中に大変お酒に酔っておられる方が、ベロベロになって道の真ん中でこけたりとかなくなつていらっしゃる方を発見いたしました。直ちに警察のほうに連絡をしますと、「うちも探しとったんや、どこですかいな」ということで、すぐに対応をしてもらったことがあります。それから、リュックサックを背負って歩いている方で、比較的まだ若い方でしたけれども。声を掛けますと、ちょっと話が通じなくて。この方は一体どこへ、この時間帯に歩いているんだらうと。ずっと車で横をついていくんですけれども、あちこち歩かれるのは速く歩かれるんですけれども、どこを目的に、この夜中の時間に歩いているのか分からない。これ、ちょっと保護してもらったほうがいいかなということで、警察さんのほうに連絡をしまして、とにかくこういうところにいますと。110番をそのときしなかったんですね。警察署の電話のほうへしました。ですので、GPSの連絡とかいうことがちょっとできなかったもので、うちは青灯を付けておりますので、すいません、赤灯を回してちょっと来てもらうたら、お互い夜、分かるのじゃないかなというふうに思いますということで、比較的、早い段階で合流ができた。話を聞いてもらうと、ちょっとこれは保護したほうがいいねという事案になりまして、結果的には良かったかなというそういうこともございました。それから、青色防犯ってということで、最初にも言いましたように、この車は何の車かと、市民の方が分からない方もたくさんいらっしゃいまして。トレーラーの先頭の車とかいうふうにも思われる方もいらっしゃいました。私たちは警察さんと一緒に、警察車両、いわゆるパトカーと一緒に走ることによって、これは防犯パトロールをしている車なんだというふうに認識してもらおうということで、合同パトロールをお願いいたしました。偶数月の1日を合同パトということで、警察さんと一緒にパトロールができるようになって

たのも、これは結果的に良かったかなというふうに思っております。それから最後のほうに市民駅伝だったり、あやべ水無月まつりでの協力ということですが、これは通信テスト、そういう訓練も含めて、無線を使っているような連絡をしております。市民駅伝では第1位、それから第2位とかいう形で、走っておられる方のゼッケンを連絡をしたりとか、水無月まつりでは車の混雑状況、道の状況、それから駐車場の状況などを本部のといいますか、FM いかるですね。そこへ連絡しますと、FM いかるがお祭りの日には特別番組で、そういう情報をずっと流してくれていると。そんなことでございます。

次は、パトロール、いろいろあります。青パトってということで、私たちは見せる防犯と。この活動に



徹するというふうに考えております。青パトをしておって良かったことといいますかね。非常に安全運転ができるようになったなというふうに思います。絶対に事故をしてはいけないし、交通ルールも絶対、守らんかったら駄目と。途中でタバコを吸いながらとか、携帯電話なんでもってのほかであります。そういう意味においては、青パトの運用中はちょっと緊張感と責任感といいますか。ある意味、そういうものが大事かなというふうに思っております。ながら運転は絶対に駄目というふうに、メンバー同士で言っております。それから、青パトの認

知度をもっとアップしたいというようなことで、先ほどの合同パトロールもそうでありましたけども、市の広報のほうで私たちの活動を紹介してもらったというようなこともありました。この知ってもらったということは、いい意味でのことと、それから本来の抑止力ですね。よからぬことを考えておる者に、青色防犯の車が来ればすぐに警察に通報されるとか、ちょっとそういう意味においては、よからぬ人たちに抑止効果を。それから市民の方たちには防犯意識の高揚と。この両面で青パトの認知度をアップしていきたいなというふうに考えておりました。最後に好きで始めた活動なので、自己満足で終わらないようにしないとということでございます。これは行政関係の催し物ですね。行政の方、警察、行政も含めてですけれども、交通安全のスタート式であったりとか、1日署長さんが来られたときのスタート式ですね。そういうものにも比較的、警察さんのほうから声を掛けていただけるようになりまして、参加をさせていただく。これもいわゆるマンネリ化といいますか、そういう活動の内容があまり単調ではあまり良くないので、気を引き締める上においても、新たな気持ちを持つ上に置いても、ありがたい声掛けをいただいているなというふうに思っております。いろいろとありますけれども、新しい人材ですね。今のメンバーは全員男性でございますので、できたら女性のメンバーも増えていけばいいかなというふうに思ったりもしております。それから、この講習会ですね。青パトの。これも今コロナ禍ということで、ちょっとストップをしておるようでございますけれども。警察さんのほうにもお願いをしまして、できたらロールプレイングの方法をとっていただいた講習会、自動車学校のコースを貸し切ってもらったような形で、いろいろと講習、実際に110番通報はどういうふうにするんだろうかというようなことも体験できるようなことも、できたらいいなというふうに思っております。

【京都府】

## 綾部セーフティパトロール隊



## 子供見守り活動



## アマチュア無線通信訓練



次、最後、子供の見守り活動ですね。これ、全体に青パト隊でやっております。学校との連携ということもありますし、先生がたにも理解をいただいております。全校集会のところで、青パトというのは、みんな知ってるかというような形で声を掛けてもらって、紹介をしてもらうということもございました。それから下のほうはアマチュア無線の通信訓練と。朝日のあ、いろはのいとかいうような形で、私、爲廣といいますけれども、タバコのタ、明治のめ、飛行機のひ、ローマのロというような形で送ったら、爲廣というのが比較的、分かりやすい。端的に正確に連絡をするというようなことを訓練の1つとしておりますので、何か事案が発生したときも、車の特徴であったりとか、できたらナンバープレートとか、どのようなことか、それが端的に連絡ができたらいいなと。そんな訓練も兼ねて連絡をしております。

最後、この写真でございますけれども。これは6月1日、合同パトロールをしたときに、集合写真を撮りました。一緒に活動をしていただいておりますところは、私のいいなというふうに思っているのは、行政機関であったり、警察さんであったりとか、市役所、それから民間のリーダーが、それからガソリンスタンドさんとかで、われわれ市民であったら、小学校の見回り隊とか、これもみんな、3者一緒になって合同パトロールができていうのがいいなというふうに思います。今日、こういうような形で私が発表を実はあるんですっていうようなことを、この場で言いますと、頑張っといよということで、拍手をいただきました。みんなあったかいなというふうに思って、感謝をしております。そういう優しい気持ちが地域力、1つそういうところにもつながっているのではないかなというふうに思います。地域社会との連携ということを、さらに強くしてまいりたいなというふうに思います。それから、これは私の持論でございますけれども。昔、お巡りさんに検挙に勝る防犯なしというようなことを話を聞きました。今はだいぶ変わったということでございますけれども。これは、そのとおりだろうなと。悪いことしたやつは、やっぱり捕まえてもらわにやいかんと。ただ、われわれ市民レベルのできることは、一緒になってきたらいいなというふうに思っております。そういう意味においても、良き警察、行政の活動に対して、これも防犯につながるのではないかなというのが私の持論でございます。ある程度の良き理解者であって、協力者っていうのが警察の行政の活動に理解があれば、そういう方が1人でも多くなれば、また防犯力、地域力というのもアップするのではないかなというふうに私は思っております。

## おわり

ご清聴ありがとうございました。

つたない話でございましたけれども、われわれ綾部セーフティーパトロール隊から、活動の内容を少し発表をさせていただきました。ご清聴、誠にありがとうございました。

# 大阪学生ボランティアネットワーク「みっくす」(大阪府)

皆さん、こんにちは。大阪学生ボランティア「みっくす」代表の福田と長峰と申します。これから大阪府の代表として、団体の活動を紹介させていただきます。ご清聴のほどよろしくお願いいたします。それでは始めさせていただきます。



## 団体紹介

- ① 大学生主体の防犯ボランティア
- ② 現在数：17人
- ③ 主な活動  
学生主体のランニングパトロール  
Twitter等SNSでの情報発信  
地域の方々や自治体、警察と共同した防犯活動 等々



私たちの団体は大阪府大学生が主体となっていて、現在 17 人で活動しています。平成 22 年 7 月 15 日に結成され、同年 8 月に京セラドーム大阪において車上部品狙い被害防止キャンペーンの参加を皮切りに、以降、できる範囲で楽しく、無理なく、継続的にをモットーに、地域の方々や自治体、警察の方と共に定期的な研修会を行うことで、メンバー間の交流を深めてきました。コロナ禍の中、現在の主な活動としましては、学生主体のランニングパトロール、SNS での情報発信、地域の方々や自治体、警察などと共同した防犯活動を行っています。

### 〈大阪府外の大学〉

奈良教育大学 (奈良県)  
帝塚山大学 (奈良県)



## 活動内容

- ランパト
- SNSでの情報発信
- 定例会
- 研修会 (警察と共に)
- 警察主催のイベントへの参加

現在、活動に参加している学生は私が通う大阪経済法科大学の他、大阪人間科学大学、摂南大学、近畿大学、大阪体育大学、桃山学院大学、相愛大学、大阪府外の大学で言いますと、奈良教育大学、帝塚山大学の学生です。大阪の北から南まで幅広い学校から参加していただいているので、学校以外の人との交流も持つことができます。今後もさらに活発に活動し、交流の輪を広げていきたいと考えています。

それでは私たちの活動内容について紹介させていただきます。主な活動内容につきましては、ランパト、SNS での情報発信、定例会、研修会、警察主催のイベントの参加となります。以下、活動内容について発表させていただきます。また、ランパトのときに着ている服が、こういうランパト T シャツを着て町中を走っているようにしています。

## 活動1 ランパト



## ランパト&安まちアプリ！！

ランパトをする際に安まちアプリも使って行っています。

安まちアプリの防犯マップ→走る場所でのどのような犯罪が？

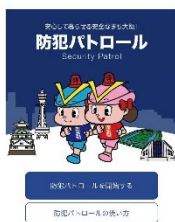
安まちアプリの防犯パトロール→どのルートを走り、時間・距離が分かる！

**\*皆の意識がアップする！！**

まず最初に、ランパトの活動です。ランパトは町をランニングしながらパトロールするという活動です。ランパトのコース決めでは、事前に集まりやすい場所や、犯罪が起こりやすい路地、公園付近などを意識して決めています。実際、走っていると周りの方からの視線を感じます。視線を感じるということは、存在感を出している証拠なので、やりがいを感じています。実際ランパト中に気を付けていることは、他の通行の邪魔にならないよう横に広がらないようにしている。人数が多いときは、いくつかのグループに分けて密にならないように気を付けている。コロナ前はすれ違う方に挨拶を行っていました。活動の頻度はコロナ前には、月に2回、定期的に大阪府内の各所でランニングパトロールを行っていました。またコロナ禍で集まってのランニングパトロールができなくなったため、1人ランパトをリレー形式で行おうと考えました。1人ランパトは強制的にせず、有志の方を募り、各自に日程を割り振り、ランパトを行いました。以前、大阪城公園をランパトした際に、小さい子供や家族連れの方々に手を振っていただき、うれしい気持ちになりました。自分たちの行動で少しでもこのような小さい子供の犯罪が少なくなればよいと感じ、モチベーションも上がりました。またランパトをしているときに、さまざまな方に挨拶をしたいと考えています。しかし、コロナ禍ですれ違うときに挨拶ができないので、関心を持ってくださる方が少なくなっているのではないかと感じています。自分たちから挨拶ができれば、地域の方々への知名度がアップし、「みっくす」がもっと広まると考えています。

ランパトをする際に、安まちアプリの機能を活用しながら行っています。安まちアプリの防犯マップの機能で、走る予定の場所ではどのような犯罪が多いのかを把握し、頭に入れながら走ることで、防犯活動としての意味があると考えています。

## 安まちアプリ



## 防犯パトロール



次に防犯パトロール機能です。この機能はランニングをする際に使用し、走った時間や距離が出て、その距離によってポイントがもらえるシステムになっています。ポイントがたまると、大阪の各地域のキャラクターがもらえます。ポイントがたまることで、ランニングのモチベーションがアップされることが期待されます。また複数人でチームもつくれるので、友人と共有することも可能です。「みっくす」

では防犯活動の一環として、「みっくす」のメンバーで集まり、ランニングパトロールを行っています。その際にこの機能を使ってランニングをしています。走った距離や道のりが一目で分かるので、終わった後の達成感が強く感じられます。



## 活動2 SNSでの情報発信

### Twitter

- ・1日1ツイート
- ・ランパトリレー
- ・活動報告



## Twitter

〈1日1ツイート〉  
Twitterで1日1回つぶやいています。

### 目的

- ①アカウントが動かすこと
- ②メンバー1人1人に役割を持ってもらうこと

みっくすのメンバーで巡回させるようにして担当しています。



次に SNS の情報発信です。「みっくす」の Twitter アカウントは 2016 年 7 月に作成されました。しかしアカウントが存在するだけで、積極的な活動ができていないことが課題でした。私たちが「みっくす」に入った時期は、コロナ禍で対面活動が自粛となり、それまで対面活動が基本だった「みっくす」の活動は、ほぼないという状態でした。そこでピンチをチャンスに変えようと考え、人と会わず、情報発信できる SNS の活用に力を入れました。ここでは 3 つの例を挙げ、活動内容を紹介します。

まず 1 日 1 ツイートですがこれは会員全員で担当を決め 1 日 1 回、Twitter に投稿するようにしています。「みっくす」ではこれを 1 日 1 ツイートと呼んでいます。右の写真は 1 日 1 ツイートの投稿内容の画像です。1 日 1 ツイートの目的は、1 つ目は「みっくす」の Twitter を動かすこと。2 つ目がコロナ禍で対面活動ができなくても、全員に役割を持ってもらうことで、ただ「みっくす」に入っているだけになってしまっていることを回避し、メンバーとしての帰属意識を持ってもらうことです。この活動を始めたばかりの頃は、大阪府警の学生ボランティアという立場で発信するという事に緊張し、内容が固く、面白みや話題性に欠けるツイートが目立ちました。現在では内容がやわらかくなりつつありますが、まだ硬さが抜けきれないことが課題です。

## Twitter

### 〈ランパトリレー〉

コロナの感染拡大により、対面で大人数での活動となるランパトを自粛しなければならぬと判断しました。



個人 (1 人) でランパトを行い、走った様子を Twitter に投稿することで、**コロナ禍でも活動を維持**しています。



## Twitter

### 〈活動報告〉

ランパト、定例会、ボランティア活動への参加などを行った際に活動報告として、活動内容を投稿しています。

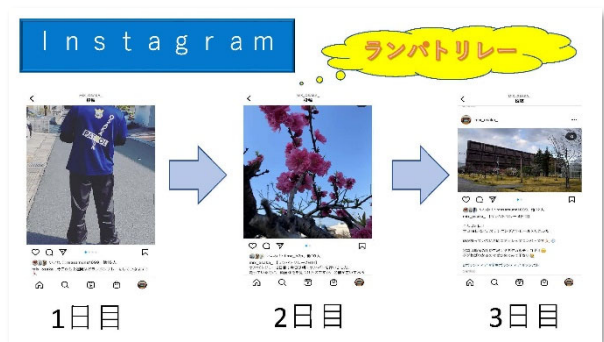
他の投稿と区別がつくように、文章の先頭に【活動報告】と記載する工夫をしています。

多くの人に見てもらえるよう、全ての投稿でハッシュタグを活用することを心がけています。



次にランパトリレーとは、コロナ禍で大人数での活動を自粛した際に、個人でランパトを行い、それを SNS に投稿することで活動を維持しようという考えから始まりました。ランパトリレーでは個人でランパトを行い、その写真を投稿します。

最後にランパトや定例会、ボランティア活動へ参加したときは、活動報告として活動内容を投稿しています。「みっくす」の活動を多くの方に知ってもらい、学生世代が防犯活動に興味を持っていただけたらと思います。



続いて Instagram は去年の 9 月に開設。最初は団体としての活動ごとに投稿していました。しかし、コロナ禍で投稿頻度が少なくなり、危機感を覚え、個人ランパトでも活動報告として投稿するようになりました。またランパトリレーを行った際には、ランパトリレー何日目と入れ、投稿でもリレー形式だと分かるように工夫をしました。Instagram を開設したことによって、インスタを見て「みっくす」に入会する学生が増えています。このように「みっくす」に関心を持ってもらい、メンバーを増やしています。Instagram のアカウント画面には連絡先のリンクを貼り付けたりして、SNS などでもメンバーを募集しています。多くの方々に見ていただきたく、Twitter 同様、ハッシュタグをつけるという工夫もしています。

写真はランパトリレーを行ったときに投稿した内容です。投稿内容でバトンを渡していました。写真のとおりランパトリレー何日目と記入しています。投稿内容は特に指定はなく、走ったときの感想や、走っているときの町の様子などを投稿しています。このように SNS では、コロナ禍で活動が何もできないときに、Twitter を活用しようと考え、一人一人に日程を割り振ることで、負担が少なく続けられると考えました。また、Instagram は使用頻度が少なかったことから、個人ランパトをする際に Twitter、Instagram とともに使用し、活動報告を行うことにしました。このようにすることで Twitter、Instagram の SNS で「みっくす」の活気を少しでも取り戻すことができましたと感じています。

### SNSで苦労している点

1. いいね数やリツイートの数を増やすこと。
2. フォロワーを増やすこと。

改善策

自分、個人のアカウントでいいねやリツイートをする。  
身近な方達へのSNSをしている事を宣伝し、良かったらいいね・リツイートをしてもらえるように促す。  
他のボランティア団体の投稿内容にいいね・リツイートをする。

次に SNS で苦労している点です。1つ目はいいね数や、リツイートを増やすことです。SNS の投稿内容が固いという課題点があり、大阪府警さんの直轄でさしていただいているので緊張する部分があり、内容が固くなってしまいます。また、誰もが興味、関心を持ってくれる投稿内容が何かを理解できていないので、いいね数やリツイートの数を増やすことに苦労しています。私たちは、いいね数イコール、

興味を持ってくれた数と考えています。いいね数が増えれば、興味を持ってくれる方が増え、見てくれる方も増えると実感できます。いいね数が増えることで投稿内容が親しみやすくなっている証拠になり、内容が固いという課題が、解決に向かって確実に進んでいけると思います。また興味を持ってくださっている人が増える証拠にもなります。このようなことから、いいねを増やしたいと考えています。またリツイートが増えれば、さまざまな人に投稿内容が閲覧できるようになります。このようにすることで、ボランティアに興味を持ってくれる方や、「みっくす」の存在を認知してくださる方が増えると期待しているため、リツイートを増やしたいと考えています。2つ目はフォロワーを増やす点です。フォロワーを増やしたい気持ちが強いことから、こちらから積極的にフォローしていくと、勝手にフォローしてほしくないなどのクレームを、苦情をいただいた経験がありました。フォロワーが増えれば、いい

ね数やリツイートを増やすことが簡単になり、苦勞している点が解決に近づくと考えています。積極的にフォローしないと、フォロワーも増えないと思うので、フォロワーを増やす点に苦勞しています。改善策として、「みっくす」の投稿内容を自分自身、「みっくす」に参加している学生自身のアカウントで、いいねやリツイートすることです。先ほど説明させていただいたように、このようにすることで個人でフォローしている人にも情報が流れ、閲覧してくださる方が多くなると思います。また「みっくす」のアカウントで、他のボランティアの方たちの活動にいいね、リツイートをすることです。こうすること



### みっくすのSNSについて

自分達がSNSで情報発信

↓

- ・大阪の防犯活動に少しでも貢献
- ・みっくすを多くの方に知ってもらう（みっくすの認知度を高める）

注意項目3点

- ランパト中に感じた危険な場所。
- 日常生活で感じた危険な場所・行為。
- 誰もが興味を持って、見たいと思う内容。

でボランティア団体同士の横のつながりを持つことができると考えています。上記の2点が苦勞している点の対策改善策になると考えています。

続いて SNS を投稿する上で、注意している点をご紹介します。SNS で一度拡散された写真は完全に消すことはできないので、人の家の表札や、たまたま近くを通行していた人の顔など、個人を特定される恐れのある写真は投稿しないようにしています。メンバーでも顔出しに抵抗がある方は、画像で加工して、第三者、メンバーのプライバシーなどはきちんと守るように気を付けています。Zoom での定例会でも、名前は隠すという工夫もしています。また写真を載せる際に、活動に参加してくださったメンバーの方たちに、写っている写真を SNS などに投稿してよいのかどうかの確認を、徹底するよう心がけています。

私たちが SNS で投稿する際に期待していることがあります。まずはわれわれ「みっくす」への加入者を増やすことです。「みっくす」へ興味を持ち、参加してくれる人が増えれば、防犯活動に興味を持つ若い人たちが増えると考えているからです。今、防犯ボランティア活動へ若い世代の参加が望まれており、自分たちの世代に期待されていると考えています。また自分たちの活動の幅が広がれば、今は大げさに聞こえるかもしれませんが、大阪の治安の向上に貢献できると考えるからです。スライドの注意項目は、SNS に投稿するとき気を付けている点です。



活動3としまして、Zoom を使って月に1回、オンラインで「みっくす」の定例会を行っています。オンライン定例会では、次の活動の内容を決めたり、行った活動の良い点や改善点を出し合ったりしています。それをすることで、より活動が充実するように話し合いを行っています。また、コロナ禍で対面活動ができない際には、コロナ禍でできる活動の案を出し合ったりしています。4月の定例会では、対

面活動再開の基準や、対面活動再開時の感染対策方法はどのようにしたらよいかを話し合いました。「みっくす」の定例会では多くの意見を出していただいているので、意見をまとめたり、1つに絞ったりするのに苦労しています。またそれぞれ違う大学の方たちなので、学校での出来事なども話題として話しています。

研修会は近畿ボランティア団体の方たちと意見を出し合ったりする活動に参加しました。内容は防犯ボランティアの参加理由、目的、目標について話しました。そこでは少しでも地域へ貢献したいや、困っている人たちの役に立ちたいなどの意見があり、それを聞き、自分たちも学生ならではの考え方で防犯活動をしていきたいと感じました。また小中学生の登下校時の誘拐や事件に巻き込まれないようにしたい。中高生が正しい道から踏み外さないようにしたいというお話があり、地域のボランティアの方たちは、このように地元の子供に気を配ってくださっているのだと感じました。またボランティアを続ける上では、やらされているのではなく、やっている、やらせてもらっているという考えで行っていると聞き、この精神はボランティアだけでなく、物事を行う上で、とても大切なものと感じました。他の団体がどのような活動をしているのか、内容や考え方を共有することができ、視野と人脈が広がりました。また SNS について、発信内容などを工夫すれば、高い防犯効果が期待できることも勉強になりました。ボランティアに関するだけでなく、生活する上で大切なことや、人として大切な考え方が、この活動では学べたと感じています。

#### 活動 5 警察主催のイベントに参加



#### みっくすの活動への課題

- メンバーのモチベーションの低下
- 警察主体の活動（主体性が欠けていた）
- 活動に参加する人員が少なくなっている

今年4月の春の地域安全運動期間中に、泉佐野市のりんくうプレミアム・アウトレットで、警察主催のイベントに参加させていただきました。この写真はそのときの写真です。子供が警察官の制服に着替える補助をしたり、安まちアプリのビラをお客さんに配布したりしました。「みっくす」が世代交代して、初めての対面活動でした。他人に声を掛けることなど普段は全く行わないので、どのような人に声を掛けたらよいかや、声を掛けるタイミングが分からず苦戦しました。また声を掛ける言葉選びにも苦労しました。他にも安まちアプリなどに興味がない人に興味を持ってもらうという大変さ、初対面の方に声を掛ける難しさを実感できたと思います。声を掛けても無視される場面も多くあり、少し気がめいるときもありました。しかし、制服体験を楽しむ子供たちの笑顔を見ると、元気をもらえました。対面活動はオンラインとは違う気付きや、学べることが多くあると感じています。また対面活動の楽しさも、あらためて感じることができました。

続いて「みっくす」の課題点です。「みっくす」の活動への課題点については、コロナ禍で活動がない時期があり、メンバーのモチベーションが下がってしまったこと。警察主体の活動が中心で、主体性が欠けていたこと。活動に参加する人員が少なくなっていること。以上3点です。この課題の解決に向け、まずモチベーションの低下につきましては、個人的に連絡を取り合い、参加しやすい雰囲気をつくり出し、実際に活動の楽しさを実感してもらうことが解決につながると思っています。このようにすることで、3点目の活動に参加する人員が少なくなっているという課題も、解決に進めていけると考えていま

す。次に警察主体の団体から、学生主体の団体へと改革しました。オンライン定例会などでは学生同士で意見を共有し、活動案を出し合ったり、ランニングパトロール、情報発信などの防犯活動を実施しています。先ほどもお話ししましたが、SNS の課題点もあり、SNS を見てくださる方に対し、固い内容から誰もが興味を持ち、読みたいと思う投稿内容に改善し、「みっくす」の活動の状況を SNS で情報発信していきたいと考えています。最後に SNS を通して入会する人や、SNS を見てくださっている他のボランティア団体の方との交流も深め、活動の輪を広げていきたいと思っています。

### 今後の活動

**TikTok**



ランパトの様子や安まちアプリ  
の使用方法を投稿

**YouTube**



痴漢や窃盗・特殊詐欺等の寸劇  
製作

**以上がみっくすの発表内容となります。**

**ご清聴ありがとうございました。**

今後は新たに TikTok のアカウントを作り、ランパトの様子や安まちアプリの使用方法などを投稿して、ランパトの楽しさ、安まちアプリの便利さを、多くの方々に伝えていければと考えています。また、痴漢や窃盗、特殊詐欺の寸劇をして、YouTube などに投稿していきたいと考えています。「みっくす」にはまだまだ課題点や、改善していかないといけない点があり、1つ1つ解決していき「みっくす」を自分たちの力でより良いものにし、大阪の防犯に少しでも携わっていければと考えています。

以上が「みっくす」の発表内容となります。ご清聴ありがとうございました。

# 手柄地区連合自治会（兵庫県）

こんにちは。兵庫県姫路市手柄地区という、連合自治会あるんですけど。この青パトの事業について発表させていただきたいと思います。

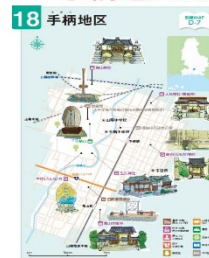


## 手柄地区における取り組み

防犯ボランティアフォーラム

令和4年6月18日  
手柄地区連合自治会

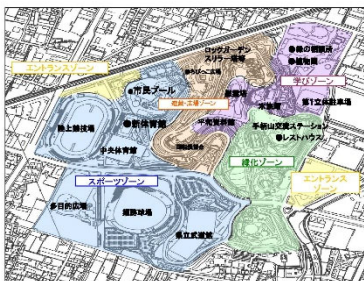
## 手柄地区とは姫路市の中心地域



JR姫路駅の南西部

姫路市役所、中央卸売市場、手柄山中央公園等があります。

姫路市の手柄地区というのは姫路の南西部でありまして。姫路の市役所、中央卸売市場、手柄山中央公園等がございます。いわば姫路市の真ん中に位置しております。



手柄山中央公園  
全体図

手柄山中央公園には県立武道館、中央体育館、姫路球場、陸上競技場等のスポーツ施設や平和資料館、全国戦災都市空爆死没者慰霊塔、水族館等の施設が集中し、年間約200万人が活用している都市公園です。

新体育館、プール、JR新駅建設に向け整備中です。

手柄山中央公園がありますけど、これ、今、整備中でかなりまた大規模な整備がされつつあります。大体、年間で200万人ぐらいが訪れる大きな姫路市の自慢のものです。ただ今、整備中であり、少し人が減っていますけど。いずれにしても姫路市の中心部を担っている地域が、私たち手柄地域ということでございます。

## 青パトの取り組み状況



週6回 1時間前後巡回を実施しています。

町別	実施者証 保持者数	内訳( )は兼務					
		防犯委員	ふれあ いの会	自治会 関係	SC 21	交通安全 協会	PTA
西延末	6	6					
延末	7	4		3			
東延末	10	10		(2)			
安田	7	7	(1)	(1)			
安田四丁目	8	8	(1)	(2)			
栗山町	11	3	1	7			
手柄	12	7		4	1		
龜山	9	9	(1)	(1)			
飯田	11	10				1	
PTA	31						31
計	112	64	1(3)	14(6)	1	1	31

青パトの取り組み状況ですけど、週に6回、巡回しております。

9町、22チームでPTAが4チーム、26チームで今、巡回をさせていただいております。ちょっとその左側のほうにあるこれが一応、ネットから全部つなげて、そこで自分たちのこの日がいいな、大体、年間数を割り当てているんですよね。1年間365日、割り当てて週6回でやっています。割り当てて、自分たちがこの週はこのチームだよっていうふうに割り当てていますから。その週のうちのどこでもいいから入れてくれと。時間帯も関係ないという形で一応、各チームにフリーハンド与えまして。そこで皆さんが状況について、じゃあ、この日、回ろうかという相談して、とにかくチームごとにやっております。

### 青パト放送の設定について

- Ch 1 子供見守り登下校及び不審者
- Ch 2 通常防犯
- Ch 3 年末警戒
- Ch 4 不審電話警戒

※随時警察・防犯協会等の要請に応じ、放送内容の変更及びマイクによる呼びかけを行っています。

9町22チームとPTA4チームの26チームで、巡回スケジュールを作成し、それぞれのチームが予定を書き込み実施しています。

また、警察・防犯協会等の要請に基づいた、緊急運行・緊急町内放送等に対応し、機動性が高まりつつあります。

また、警察や防犯協会等からのいろんな要請がまいります。この要請に基づいた緊急運行や研究町内放送等に対し、機動性を持つようにしながら、そういうものにも対応しております。青パトの放送設定なんですけど、チャンネル1からチャンネル4まであります。こういう形で4項目に分けて、その適宜な状況に応じた放送内容を、変更しながら呼び掛けております。

各チームの状況、先ほど手柄地域は9町あるんですがね。9町にそれぞれの班長がございます。班長がおりまして2カ月に1回、必ず班長会議はやり続けております。この班長会議の中で、大体2カ月に1回ですから、2カ月間あったような中身を皆さん、報告しながら今後の予定を立てたり、じゃあ、どうするかというそういう相談ごとをやっております。それとは別に、またPTAがございまして。一応、実施者証の保持者の数が今現在で112名おります。その内訳は、それぞれの各チームによって事情がありますが、そういう大体それぞれ平均して、それぞれの町にございます。



その他の取り組みとしては、いろいろあるんですけど。総踊り、年1回、今年では中止になったんですけど。8月の第1土曜日、1800人ぐらいが集まっているいろいろなやります。盆踊りの一種なんですけど。そういうものをやったりしながら、大変にぎやかな祭りなんですけど。そういうものに大変、多くの子供たちが集まってきます。

そういうこととか、年末警戒、さらにはゆかたまつりいいまして、これも姫路の由緒ある伝統的な行事なんですけど。これの巡回を行ったり、安心安全大会に参加したりしております。

### 10年間の実施者証及び防犯委員の推移

	青パト実施者証	防犯委員	
平成23年	3名	36名	3名前後で姫路防犯協会の青パト
平成24年	25名	41名	班長会議の定例化、9月青パト導入週・1回年末警戒は速口
平成26年	56名	43名	青パト講習会地元で実施始める
平成30年	73名	48名	
令和元年	91名	57名	
令和2年	108名	67名	2月青パト新車へ、週5回実施
令和4年	112名	64名	令和3年2月から週6回実施へ

### 手柄地区犯罪発生状況

年	件数	主 要
H24年1-6月(6月)	77	自転車盗26 器物破損33 車上狙い6
H25年1-6月(6月)	92	自転車盗48 器物破損23 車上狙い10
H27年1-10月(10月)	131	自転車盗47 器物破損26 車上狙い16
H28年1-12月	83	自転車盗54 車上狙い18 オートバイ7
H29年1-12月	72	自転車盗55 車上狙い12 部品狙い5
H30年1-12月	87	自転車盗62 車上狙い23
令和元年1-12月	54	自転車盗44 車上狙い4 自販機2
令和2年1-12月	54	自転車盗37 車上狙い14 空き巣3
令和3年1-12月	19	自転車盗17 車上狙い1 ナイフ1

この10年間の実施者証のこういう防犯委員の推移なんですけど。大体、平成23年が3人だけだったんですよ。これじゃいかんって、23年に青パトを導入いたしました。青パト導入して、やっぱり青パト実施者証がいるやろうと。その実施者証を受けてもらおうというて、各班に通達はしまして。徐々に増やしました。令和4年が112名。防犯委員の数も36名から64名にまで広がりました。いずれにしても、みんなで力、合わせて、それぞれが無理のない形でやっていこうというのが一番大きなテーマでございます。その中で徐々に各町にそういう理解者が広がってきたという形でございます。

手柄地区の犯罪発生状況なんですけど。これが今、平成24年からの集計で大体お分かりのように、令和3年は19件でございました。これは、単に私どもの活動が成果を示したということじゃない。やっぱり全体的な防犯意識の高まりが、そういうものに導いてきたのかなと。もちろんわれわれの活動も、その一端を担ってこさせていただいたことは事実でしょうけど。全体としては姫路市全体の犯罪件数も減っていますし、警察の努力なり、われわれの防犯意識の高まりがそういう形で結びついてきたのかなというふうに思っております。



手柄地区は市役所等主要公共施設が多く、**交流人口が定住人口を大きく上回っています。**

さらに、ラブホテル等風俗がらみも多く、**潜在的犯罪発生の可能性の高い地域**でもあると言えます。

過去には大変多い時も存在した。現在は防犯意識の高まりや、各地域の取り組み強化等もあり、**姫路市全体の犯罪件数が減少**しています。

ただ、手柄地区というのは主要公共施設が大変、多く、交流人口が定住人口を大きく上回っております。さらに、ラブホテル街も集中してます。そういう中で潜在的犯罪発生の可能性の高い地域というふうには、われわれも見ていますし、地域全体もそういうふうには考えています。ですから余計、防犯意識が高いのか。小さい子供たちを守っていかうとか、お年寄りを守っていかうとか。そういう形の中で、

少しずつそういう意識が芽生えてきている、高まってきているっていうふうに思っています。

### 今後の課題

青パト巡回のみではなく、**日常的な防犯体制の強化**

地域における**情報共有化**の更なる強化

防犯委員の**高齢化対策**

### 課題解決に向けた取組

警察署に働き掛け、地元で講習会を開催していただいています。

スマートフォンでスケジュール表で共有し、一部の人に負担がかからないように努めています。

自治会の防犯委員だけでなく、PTAにも参加を呼びかけています。

今後の課題といたしましては、青パト巡回のみではなく、日常的な防犯体制の強化。先ほどちらっと言いましたが、全体としては防犯意識は高まっているんですけど。やはりまだまだ挨拶が少ないとかね。挨拶が多い所ほど、犯罪が少ないいうふうに言われますけど。そういう地域での挨拶とか、あるいは、みんなで子供を見守る体制とか、そういうことも含めて日常的な防犯体制の強化が必要かな。そのように思っております。地域におけるもう1つは、情報共有化のさらなる強化ですね。一応、ネットのほうから防犯情報、入ってくるんですけど。それだけじゃなしに、それは見る人が限られていますので、そういうのをもっと共有化していく。交番だよりとかいうのも来るんですけど。こういうものも含めて、皆さんにもっと周知していく必要があるのかないうふうに思っております。それと防犯委員の高齢化。だいぶ若い人が増えてきたんですけどね。ただ、まだやはり全体としては、高齢化の対策がいるかなというふうに思っています。PTAから今、PTAがさっきのうちのデータ、大体20人、30人ぐらいPTAの方がおられます。その中から地域の役員になられたり、PTA卒業されてね。役員になられたり、そういう方々が、また地域に入られて防犯委員になられたりしていますから。少しずつはそういう形で広がりつつありますし。若い人が中心に、地域そのものの自治会の高齢化も進んでいますから。その世代交代も進みつつあります。そういう中で、少しずつですけど高齢化の対策がとれつつあるんですけど、もう少しきちんとした対応がいるのかなというふうに思っております。

あとは、警察に働き掛けて、地元で青パトの実施者証の講習集会を開いていただいたり。今はちょっとコロナ禍でここ2年、3年あまり、リモートで受けていただいていますけど。そういう形で警察との協力関係も、もっと強化していかないかなというふうに思っていますし。そういう形で、それから自治会の防犯委員だけでなく、先ほど申し上げましたような毎年、20人、30人ぐらいずつ、PTAの参加もいただいています。それで、子供乗してもいいつつ話がありまして、いいよ、一緒に乗ってっていうふうな話もしています。少しでも、そういう若いお母さん、お父さんがた、興味を持っていただいて、できるだけわれわれの活動に参加、結集していただくような。そういうものをつくり上げていきたいというふうに思います。以上、ちょっと雑ぱくな話で申し訳ないんですけど、手柄地域の活動状況の報告に代

えます。ありがとうございました。